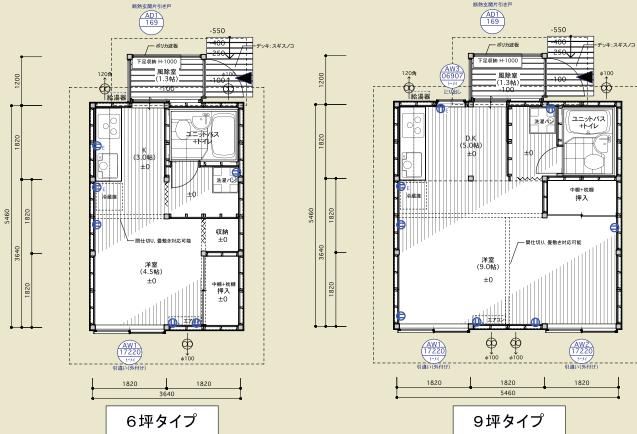
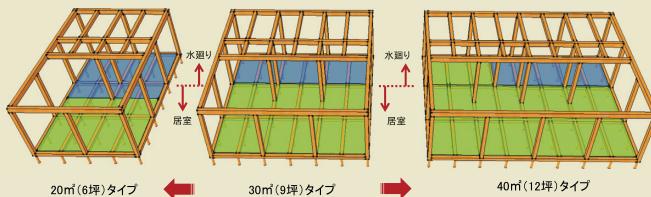
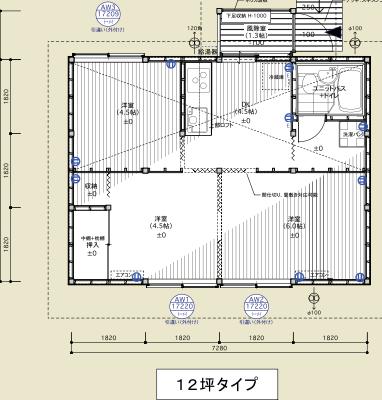


再生可能な木造仮設住宅



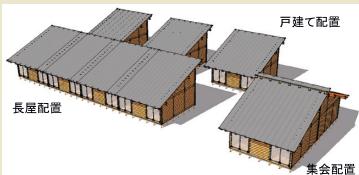
杉板パネル(厚30mm)は、既製の板材を単純に幅はぎしたもの。安価に制作でき、地域材を通じた雇用も生み出せる。

仮設住宅ではビス止めし、解体後は本設住宅の構造耐力壁面材や造作家具として再利用出来る。

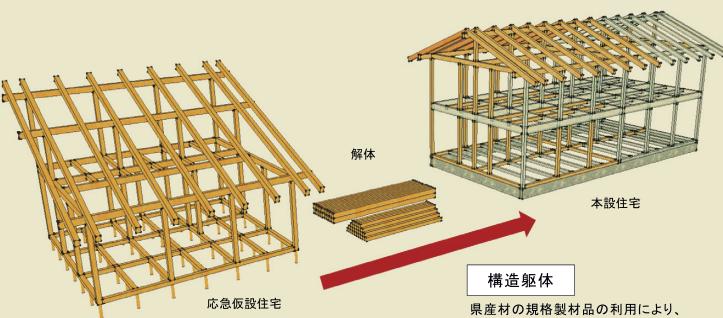
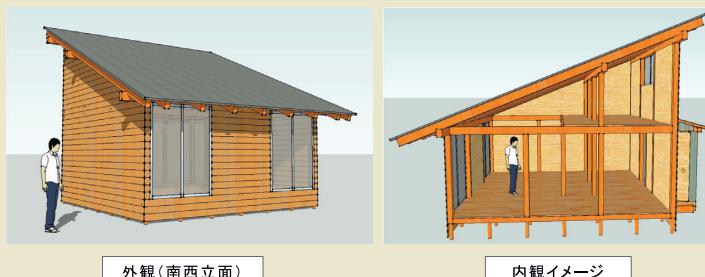
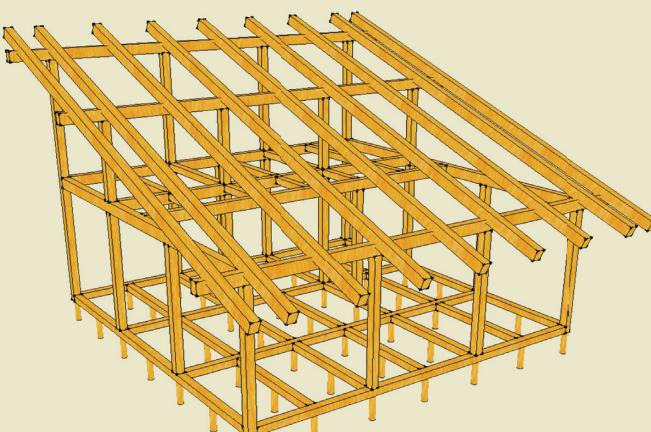


奥行2間の居室ゾーンと奥行1間の水廻りゾーンを基本とし、左右の幅の増減のみで各規模のタイプに容易に対応できる。

戸建て、長屋、どちらも可能な住戸配置



敷地や入居者の条件に応じて、戸建て、長屋、どちらの配置にも対応できる。奥行方向にユニットを連結させ、集合ボランティア施設等も配置可能。



COMINET LIVE

Communication Network for Live

株式会社
松井郁夫建築設計事務所
まちづくりデザイン室

165-0023
東京都中野区江原町 1-46-12-102/203
TEL03-3951-0703 FAX03-5996-1370
URL <http://matsui-ikuo.jp>
E-mail ok@matsui-ikuo.jp

2011 [No.51]

東日本大震災で亡くなられた方に、心よりお悔やみ申し上げます
また、被災された方々の復興を支援したいと思います。

木造仮設住宅の提案

この案は、木造仮設住宅の建設に地元の木を使い、地元の人たちの手でつくり、地元雇用を生むことにより、地域の力による被災地の復興を支援したいという想いで提案しました。杉材を架構材とし、屋根や壁に杉の厚板を多用しています。構成は杉の規格材 120×120、180×120、30 mmの杉幅はぎパネルを使うことによって、ほとんどの部材が仮設住宅から復興住宅に移行できる再利用が可能な架構計画です。

また杉幅はぎパネルの多用により、室内は暖かな空間となり、快適な仮住まいを提供できます。杉幅はぎパネルは仮設ではビス止めとし、構造面材や造作・家具等へ再利用することを前提とし、木材産地の新たな商品化にもつながります。

断熱材は木質纖維系を使い、屋根、外壁、床下に冬の寒さに耐えられる性能を確保し、再利用することはもちろん廃棄されても土に還る自然素材を使います。

建物の平面計画は、一間 1818 mmをグリッドとして、居室を構成し、水周りを核に必要に応じて増築や減築も可能です。断面計画は片流れのロフトつきで、収納や寝室の確保し、屋根には、太陽熱発電パネルを取り付けることも可能です。この提案は、木造仮設住宅のプロトタイプを目指しています。提案を公開していますので、使っていただける方には詳細な図面を送ります。事務所に、ご一報ください。

現在進行中

「大和の家」上棟

施工:キューブワン・ハウジング

木組の店舗併用住宅です。共著「私家版」仕様書という専門書をご覧になって依頼されました。事例に掲載された「葛西の家」という木組のプロトタイプに近い架構と間取りの家がお気に召され、木と漆喰による、自然素材のお住まいをご要望されました。

建て主様のご期待に沿えるよう、一同完成を目指して頑張ります。



「吉祥寺の家Ⅱ」実施設計

施工:未定

日本一住みたい町、吉祥寺に建つ住宅です。

拙著「木組の家に住みたい！」を読まれて依頼されました。日本の文化に造詣の深いご夫婦と小さなお子様4人の住まいです。

敷地探しからご一緒しました。吉祥寺の地にふさわしい、緑の庭を望む、現代的でおおらかな空間をつくります。



「鶴見の家Ⅱ」完成

施工:キューブワン・ハウジング



鶴見の家Ⅱ

鶴見駅近くに茶室のある木組の家が完成しました。実は、14年前に同じ建て主さんの家を建てていますので、今回で二軒目のご依頼です。前回、実現しなかった茶室と水屋を、設計させていただきました。

亡母様がお茶の先生だったこともあり、念願かなっての住まいとなりました。木組のダイナミズムに茶室の数寄を融合するという、難しい試みです。

思い出の建具や道具に囲まれた、豊かな時間が流れています。竣工おめでとうございます。

所在	神奈川県横浜市鶴見区
構造規模	木造2階建て
建築面積	75.87 m ² (22.95坪)
延床面積	123.63 m ² (37.40坪)
設計監理	松井郁夫建築設計事務所
施工	キューブワンハウジング(佐々木棟梁・白鳥監督)
材木	天童TSドライシステム協同組合
写真撮影	奈良岡 忠



上:外観

左上:吹抜

真中:寝室

右中:水屋

下:お茶室